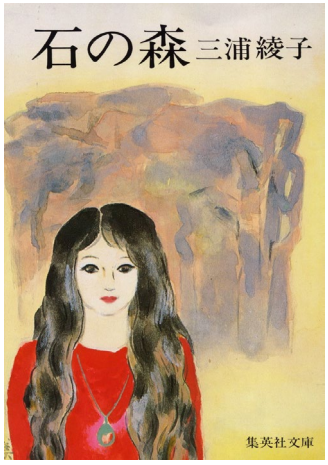
朗読者・絵本専門士の派遣レポート　Vol.7
三浦綾子記念文学館主催「第3回声つむぎ朗読コンテスト」で、講座修了生が審査・選考

文字・活字文化推進機構では読書推進の一環として、全国の文学館・美術館・博物館などで開催されるイベントへの朗読者・絵本専門士の派遣をお手伝いさせていただいております。

7月26日に『声つむぎ朗読コンテストー三浦綾子文学を愛する朗読者の登竜門ー』（三浦綾子記念文学館主催）にて、「山根基世の朗読指導者養成講座」第1期修了生・橋本恵子さんが、選考委員をつとめました。三浦綾子文学を通して、人の声で物語を紡ぐことの魅力に触れるコンテストの小説部門には、110編の応募があり、予選を通過した8名の方が『石の森』を朗読しました。エッセイ部門では『ごめんなさいといえる』を 94編の応募から4名の方が選出され、朗読しました。



『石の森』三浦綾子著　集英社文庫

▶選考委員・橋本恵子さんの感想・コメント

代表作「氷点」にも登場する見本林に隣接する、旭川市の三浦綾子記念文学館。足を踏み入れた瞬間「ここで、三浦文学を朗読で味わえる」ことに感謝の気持ちが湧いてくるような素敵な空間です。

小説・エッセイ各部門あわせて204編の応募から、本選に残った12名の朗読は、それぞれの解釈・表現が素晴らしく、中でもグランプリ受賞の2名はいずれも作品理解の深さが表現ににじみ出て、情景や感情が立ち上がる朗読でした。審査を通して、作品を声に出して味わうことの奥深さを再確認できました。

小説部門グランプリ
あぼともこさん

右：エッセイ部門グランプリ
いしいまりこさん
左：橋本恵子さん

出演者と選考委員の集合写真

▶三浦綾子紀念文学館のご担当者様からのメッセージ

第3回を迎えた今回の朗読コンテストには全国からの応募があり、予選を勝ち抜いた優れた朗読者が本選に臨みました。選考委員をお引き受けくださった橋本恵子さんはエッセイ部門のグランプリの方の講評と、その他2名の方の講評をくださいました。朗読表現に関して的確なお話をくださり、ご本人のみならず、会場にいる全ての朗読者への学びとエールになりました。コンテスト終了後も熱心にご指導されていたのが印象的でした。

朗読者・絵本専門士の派遣事業では、2025年度は**最大20館**への派遣を予定しております。
企画を検討されているご担当者様からのお問い合せ・ご応募をお待ちしております。

詳しくはこちら！▶
https://bit.ly/3zOJ61V